

I. 一般目標 (General Instructional Objective)

産婦人科疾患を有する患者の診療に携わることにより産婦人科の基礎的知識並びに基本的診察法、検査法、治療法を習得し、女性特有疾患のプライマリケアならびに救急疾患に対処できるようになる。

II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

思春期、成熟期、更年期の生理的、肉体的、精神的変化、女性の性周期や加齢に伴うホルモン環境の変化を理解するとともにそれらの失調に起因する疾患に関する系統的診断、治療について研修する。また、妊産褥婦についての基礎的な知識を修得し母体疾患の胎児に与える影響、妊娠が母体に与える影響について研修する。さらに、産科救急について理解するとともにその対応について実地に研修する。当科では産科と、婦人科に分けそれぞれ研修し担当症例については手術の助手として参加する。また、分娩症例ではその経過を評価し、分娩介助ができるよう研修する。

産科

1. 産科的問診法ができるようになる。
2. 病棟処置ができるようになる。
3. 分娩の進行を理解し介助ができるようになる。
4. 産科特殊検査法を理解する。

超音波断層法(妊娠の超音波診断、胎児体重推定、臍帯血流波の測定)、羊水穿刺など。

5. 産科手術の助手ができるようになる。
6. 新生児の診察法を理解し、行うことができるようになる。
7. 正常産褥を理解する。
8. 産科緊急疾患を理解し、その対応ができるようになる。

婦人科

1. 婦人科的問診法ができるようになる。
2. 婦人科的診察法(内診・直腸診)ができるようになる。
3. 婦人科的検査法を理解し行うことができるようになる。
 - ①子宮腔部擦過細胞診
 - ②経腔超音波断層法
4. 不正性器出血の原因と対処法について理解する。
5. 婦人科救急疾患の診断と対処ができるようになる。
6. 婦人科手術の助手ができるようになる。
7. 月経異常の系統的診断とその治療を理解する。
8. 更年期障害、骨粗鬆症について理解する。
9. 婦人科悪性腫瘍の診断と治療を理解する。

III. 方略 (Learning Strategies)

病棟・外来でのOn the job Training、カンファレンスや学会参加など。

IV. 経験できる疾患・手術など

経験できる症例

婦人科 【子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、子宮頸部異形成、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍 など】

産科 【正常の妊娠・分娩、切迫早産、切迫流産、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群 など】

不妊外来 【不妊症、不育症、反復流産 など】

経験できる手術と手技

腹式手術【広汎性子宮全摘術・準広汎性子宮全摘術・腹式単純子宮全摘術・筋腫核出術・付属器摘術・試験開腹手術(悪性疾患)・卵巣癌手術・その他】

腔式手術【腔式子宮全摘術・外陰切除術・円錐切除術・CO2レーザー蒸散術・子宮内膜全面搔把術・その他】

腹腔鏡手術【単純子宮全摘術・付属器手術・筋腫核出術・その他】

子宮鏡手術

術後患者の創処置、術後管理、癌化学療法患者の管理、放射線治療患者の管理

産科手術【帝王切開術【・異所性妊娠手術・頸管縫縮術・子宮内容除去術・その他】

正常妊婦の分娩、産褥の管理、正常新生児の管理

V. 評価 (Evaluation)

Minimum EPOC、症例レポートによる自己評価・指導医評価。

指導医による形成的評価。

VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 牛嶋 公生
2. 指導責任者 堀之内 崇士
3. 指導医 牛嶋 公生、吉里 俊幸、駒井 幹、今石 裕人、河野 光一郎、津田 尚武、西尾 真、上妻 友隆、品川 貴章
4. 研修施設 久留米大学病院(長崎県岐病院)など

VII. 週間予定

1. 病棟業務

産科病棟もしくは東5階病棟で勤務する。

※基本的には月曜から金曜日まで毎日が手術日である。

月 8:00朝礼、手術、外来、病棟処置

火 周産期センター回診、手術、外来、病棟処置

(16:30周産期母子医療センターカンファレンス)

水 手術、外来、病棟処置

木 婦人科病棟回診、手術、外来、病棟処置

(17:00婦人科カンファレンス)

金 手術、外来、病棟処置

土 病棟処置

*カンファレンスでは受持医として発表する。

*1回/1~2ヶ月 周産期症例検討会(筑後地区):研修医の発表可。

*福岡産科婦人科学会(2回/年):研修医の発表可。

*研修協力病院で研修の場合は各々の研修病院の週間予定に従う。

*産婦人科専攻コースを選択した者は春の日本産科婦人科学会学術講演会、夏の日本産科婦人科学会サマースクールに参加することができる。

